


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】《 実践 I 》

1 実践テーマ	【 III 】														
2 実施対象者	北九州市立足立小学校 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">1時間目 〈人権講演会〉 全学年児童 保護者</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">2時間目 第4学年1組 29名 第5学年1組 36名 第6学年1組 29名</td> </tr> </table>	1時間目 〈人権講演会〉 全学年児童 保護者	2時間目 第4学年1組 29名 第5学年1組 36名 第6学年1組 29名												
1時間目 〈人権講演会〉 全学年児童 保護者	2時間目 第4学年1組 29名 第5学年1組 36名 第6学年1組 29名														
3 展開の形式	<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">(1) 学校における活動</td> <td style="width: 40%;">単元名</td> </tr> <tr> <td>① 教科名（総合的な学習の時間）</td> <td>「未来の自分へ」</td> </tr> <tr> <td>② 行事名（ ）</td> <td>～さまざまな人とふれあって～</td> </tr> <tr> <td>③ その他（ ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) 地域における活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>① イベント名（ ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② その他（ ）</td> <td></td> </tr> </table>	(1) 学校における活動	単元名	① 教科名（総合的な学習の時間）	「未来の自分へ」	② 行事名（ ）	～さまざまな人とふれあって～	③ その他（ ）		(2) 地域における活動		① イベント名（ ）		② その他（ ）	
(1) 学校における活動	単元名														
① 教科名（総合的な学習の時間）	「未来の自分へ」														
② 行事名（ ）	～さまざまな人とふれあって～														
③ その他（ ）															
(2) 地域における活動															
① イベント名（ ）															
② その他（ ）															
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピアンとの交流を図り、障害者理解を深めるとともに、その人の生き方を知り、自分の生き方を見直したり、将来への展望をもったりすることができるようにする。														
5 取組内容	<p>○ 足に障害のある陸上競技者から、パラリンピック出場までの挫折と、それを乗り越え、自分の道を歩もうとする生きざまについて話を聞く。</p> <p>○ 講話を通して、人としての強さ・生きがい等について考える。</p> <p>○ これから自分の夢に向かってどのような努力をしていけばいいのか、自己を見つめ直すとともに、だれもが幸せに暮らせる社会について考え、互いに助け合っ</p> <p>て生活していくことの大切さに気付いたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童の感想より</p> <p>A 私が一番がんばろうと思ったのは、「勇気」をもつことです。私にはとても小さな勇気しかありませんでした。でも、まやさんの話を聞いて、小さな勇気がだんだん大きくなりました。まやさんに質問するとき、勇気が小さくなりました。でも、心の中で「勇気、勇気…」と言っていたら、いつの間にか手を挙げていました。とてもうれしかったです。だから、これからも勇気をもとうと思います。</p> <p>B 中西さんは、4位や5位という惜しい結果でも、あきらめずに取り組むことができるのすごいと思いました。足が失われたのに、明るく前向きに生きています。テニスを悔しいけど諦めて、がんばっていることがとてもすごいと思います。「勇気を出す」「宝物を大切にしよう」、そのことを大切に、これから生活し、中西さんのような人になりたいと思いました。</p> </div>														
6 主な成果	<p>○ 義足というハンデをもちながらも自分の夢にむかって突き進む姿や、中西さんを支える周りの人々の関わりについて知ること、共に生きることの大切さを実感させることができた。</p> <p>○ 中西さんの「やってみようと思う勇気をもつこと」「自分にしかない、かけがえのない宝物を心の中にしまっておくこと」という経験の中から生まれたメッセージは、児童の心に響き、自分の生き方を見直す良いきっかけとなった。また、自分もつ夢にむかってがんばる姿に感銘を受け、自らの将来について考えることができた。</p>														
7 実践において工夫した点	○ 全児童対象の「人権講演会」の部と4、5、6年生対象の交流会の部の、二部構成にして、より、中西さんとふれ合うことができる場を設けた。														

(事業の特色)	<p>○ 現役のパラリンピアンである「中西麻耶」さんをお招きし、中西さんの半生について語っていただくだけでなく、実際に競技用の義足にふれさせていただいたり、走る様子を見せていただいたりすることで、パラリンピックへの関心を高めるとともに、障害を乗り越えて自分の夢を追いかける生きざまにふれさせるように力強く語りかける中西さん→</p>	
8 主な課題等	<p>○ 1度のふれあいにとどまらず、今後も中西さんとのつながりを持ち続け、東京パラリンピックまでつなげていきたい。 ○ 市として、ニーズに応じた「人材バンク」があると助かる。</p>	
9 来年度以降の実施予定	<p>○ ボッチャやゴールボール等、障害者とともにスポーツを行う取組を行い、障害者理解をさらに深める。</p>	



中西さんの義足にふれたり、持ったりしてみる



数々の質問に、親身になって答えてくれる中西さん

《 実践Ⅱ 》

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	北九州市立足立小学校 第6学年1組 29名
3 展開の形式	<p>(3) 学校における活動 単元名 ① 教科名(総合的な学習の時間) 「日本から世界を見つめて」 ② 行事名() ~様々な音楽にふれて~ ③ その他() 1 小倉祇園太鼓 (4) 地域における活動 2 韓国「チャンゴ」 ① イベント名() 3 アフリカ「ジャンベ」 ② その他()</p>
4 目標(ねらい)	<p>○ 多くの国々の人との出会いや交流を通して、それぞれの国の文化のよさを感じ取るとともに、自国文化のよさも、改めて感じ取ることができるようにする。</p>
5 取組内容	<p>○ 日本、韓国、アフリカの太鼓を体験し、様々なリズムや音色に触れ合うことを通して違いや共通点を見つけ、互いのよさを感じ取る。 ○ 自分が興味をもった国のひと・こと・ものについて調べ、その国の人々のくらしや文化について理解する。 ○ 自分が学んだその国の音楽や文化のよさをまとめ、発表会を行う。</p>
6 主な成果	<p>○ それぞれの国の太鼓のリズム打ちを体験したり、その国の文化や暮らし等についての話を聞いたりして、言葉だけではなく「音」や「リズム」を通して「それぞれの国の文化の特徴やよさ、人々がもつ誇り」に気付くとともに、自分の国の文化について愛着を深め、外国の人々と共に生きていこうとする心情を育てるきっかけとなった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童の感想より</p> <p>A 太鼓は、どの国もみんなで楽しみたいときやおめでたい時に叩かれることが分かりました。だから、長い間人々に親しまれ大切にされているのだと思いました。</p> <p>B これからも古くからある太鼓を、みんなで受け継いでいきたいと思いました。たくさんの方が太鼓の楽しさに気づき、みんなで楽しむことが</p> </div>

	<p>できれば、もっと世界中の人たちと仲良くできると思いました。</p> <p>C 太鼓は、どんな音楽にも合わせることができます。他の国の楽器と合わせることもできます。だからみんなに親しまれるのだと思いました。</p> <p>どこの国の太鼓も、それぞれのよさがあり、すごいと思いました。</p> <p>D どの国の人も、自分の国についてすぐに話してくれました。私だったらすぐには思いつきません。それだけ、自分の国のことを知っているのは、すごいことだと思いました。私も日本のよさについて考えてみたいと思います。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○ 本校の児童は、小倉祇園太鼓を経験している児童が多い。太鼓という身近でシンプルな楽器を取りあげることで、どの子も主体的に体験をすることができた。その結果、言語が通じなくても音楽を通して、一緒に楽しみ、通じ合えることができることに気付かせることができた。</p> <p>○ 文化や暮らしについての話を聞く活動を通して、自分の国を愛する素晴らしさに気付き、また、それを受け入れ理解することによって、平和な世界が築かれることを学ぶことができた。</p>
8 主な課題等	<p>○ アフリカの人材を求めたが、見つからず苦労した。様々な機関とのつながりをもつ必要があると感じた。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○ 太鼓というシンプルな楽器を中心にし、日本・韓国・アフリカ以外の地域にも目を向けさせることができるような取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を通してのつながり ・ 音楽以外の「言語(美術・スポーツ)」によるつながり



地域の方と一緒に、小倉祇園太鼓をリズムにのって叩く



朴先生の、迫力のあるチャンゴの演奏に聞き入る



シニアさんといっしょに、担任がピアノで弾くアフリカの曲に合わせて打楽器を演奏する



朴先生のケンガリの音に合わせ、チャンゴやブクをリズムよく叩く



音楽に合わせて歌ったり、踊ったりして楽しむ